

テーマ：看護の力で地域を守る「防災×協働」プロジェクト

カテゴリー：④連携（地域との協働）

学校名：尾北看護専門学校 所在地：愛知県丹羽郡大口町下小口六丁目

課程名：3年課程 学年定員数：40名 就業年限：3年

私たちの学校は地域住民と一体となって取り組む「実践的防災教育」があります。学校のある大口町は、東名・名神高速道路のインターに近く国道41号線沿いにあります。この特性から災害時には町民のみならず、近隣地区や他県から帰宅困難者、避難者を広く受け入れる広域避難拠点としての役割が期待されています。多くの命が集まる場所だからこそ、「看護学生としてできる事は何か」を考え、地域の方々と防災教育に取り組みました。



1年次6月頃に地元の自治会の災害支援ボランティアから段ボールベッドの作り方を教わり、様々な寝床体験をします。看護の視点からも災害時の避難所環境を学ぶ重要な機会となります。



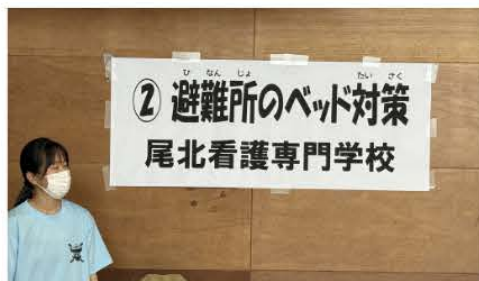
大口町内の2カ所の自治組織が行う防災訓練「楽しくまなぼうさい」で、学生はダンボールベッド作成体験と寝床体験ブースを運営します



避難所の環境を学んだ後に地域の防災訓練に参加します。

「避難所のベッド対策」ブースを担当します。段ボールベッド作り、寝床体験は子どもたちに大人気です。住民と一緒に寝床体験をする中で、「意外とふかふかだ」「固いけど寝れる」などの声が飛び交います。子どもたちと一緒に寝心地を語り合い、避難所生活をイメージしながら防災意識を高めます。

この防災イベントに毎年参加している学生もいます。



学生が地域の防災訓練に参加する意義

自治会の高齢者から子どもまで、幅広い世代と交流しながらダンボールベッドの作成に取り組むことで、地域住民とのつながりを深める貴重な機会となります。

また、看護学生として参加することで、住民からは「未来の医療従事者」として期待を寄せられます。地域にとって看護学生は重要な医療資源であり、頼られたり質問を受けたりする経験は、学生自身が「命を守る職業に就く」という自覚を早い段階から育むきっかけになります。